

# 再開された石桜祭

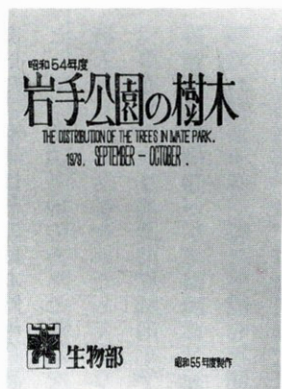
校舎焼失により中断されていた石桜祭は、昭和五四年に再開された。新校舎では初めての開催で、準備に手間取り一時は一般公開さえ危ぶまれたものの、いざ蓋を開けてみると評判は上々だった。十分な宣伝ができなかったにもかかわらず、入場者は初日に二〇〇名を越え、二日目には七〇〇名を越えた。新しい校舎を見学に来た中学生も多かったし、女子高生も多数来校した。とくに、高校入学直後に火災に見舞われた三年生にとっては、高校生活の最後を飾るいい思い出となった。

復活二年目となった翌五五年の石桜祭を、ある年輩のOBが訪れ、『石桜同窓会報』第一号にリポートしている。

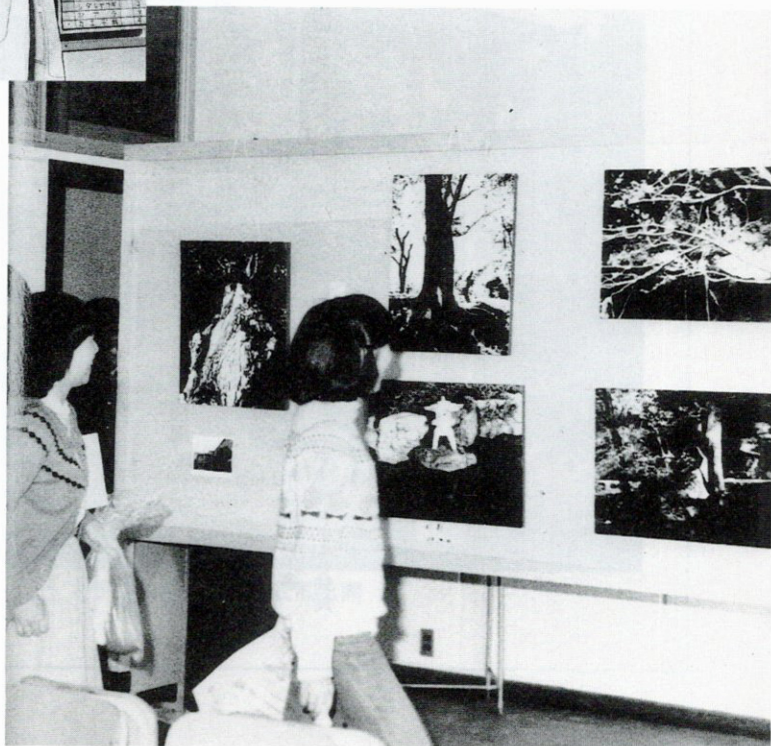
まず、正面玄関に「石桜祭」の立看板が目に入る。杉の葉で校門を飾った昔とは大分違う。傘をすばめて受付へ。ジュウタンを敷きつめたフロアーに驚きながら、プログラムを片手に螺旋階段を三階へ。

〔化学・地学展〕三階東側に面した化学・地学展が最初の会場である。白衣を着た係員がフラスコ・ピーカーを並べ、真剣に実験とどろくんでいるのも、いかにも化学展らしい。

石桜祭 生物部の展示  
(昭和54年)



昭和55年に発表した生物部の研究成果は岩手日報にも紹介された



石桜祭美術展(昭和54年)

かつて県下一の岩石標本を誇った地学展は、部屋の隅っこにひっそり。その数六十点余り、盛岡周辺のものとのこと。このまま採集・研究を続けたり、かなりの成果が期待できる。

〔物理展〕早々に隣室つきぬけの物理展へ。それぞれ趣向をこらした「音声リレー」「電子オルガン」等々、係員が展示物にとりこんでいる。当世はやりのゲームが子供達の人気を呼び、そこだけが人だかり。

化学・物理展とも、閑散としていたが研究準備は十分とみた。廊下に出、南側校舎生物展へ。〔生物展〕この会場は活気にあふれていた。入口には例の如く、人体模型が参観者をじつとらんでいる。

入るとすぐ「説明します」ときた。「血液の循環」について…今を去る二十年前を思い起こそうと努力するが、無駄なこと黙って聞き入る。続いて「プランクトンの生態」、高松の池で採集観察したとのこと。その他「水生昆虫」「蝶の標本」「白ネズミの解剖」と、日頃の地道な研究成果がここに結晶していた。

係員の態度も高校生らしく好感がもてた。一隅では祭りの夜店よろしく「金魚すくい」、しばし童心にかえり挑戦するが見事失敗。

また、岩手公園の樹木についてまとめた小冊子は長期間の調査に基づく立派なもので、生物部諸君の大きな意気込みが感じられる。

〔社研展〕図表による世界の軍備力比較、北方

領土関係年表、ソ連のアフガニスタン軍事介入の内訳等、今日の問題をテーマに。最新鋭の戦闘機・潜水艦の写真も興味をそそる。

三人でこれほどの研究をしたとは：係員生徒も礼儀正しく好感がもてた次第。

〔美術展〕風景、人物画主体の油絵がずらり。中央には参観者のためのテーブルと椅子。細かい心づかい。飾られている花もよくマッチし、いかにも美術展らしい。

やはりここでの出色は、県高校美術展入選のポスターならびに県芸術祭デザイナー協会賞受賞の「飢える」と題する某君のデザイン。将来が楽しみである。

欲を言えばデッサン、水彩画、彫塑、油絵の大作がほしい。再び階段を四階へ。

〔写真展〕かつての暗幕に囲まれた暗いイメージはなく、明るい会場。ポートレート、人物、風景、全紙七十点余の作品群。聞けば、夏休み全員合宿して文化祭に備えたとのこと。

部屋に飾りたい作品もいくつか。子供への土産に「猫」のシオリを二、三枚頂戴。

〔書道展〕色紙、条幅百点余の作品。書のかもしだす閑雅な趣きに、心落ち着く。隅に飾られた茶花も一役、いかにも書道展らしい。

ろうけつ染の枯淡に心奪われ、啄木歌碑の拓本では今さらながら、こんなにも盛岡にあったのかと驚く。

配置もよく、日頃の活動成果がよく表れている

と思つた。

〔映画展〕熱心な呼び込み。自主作品上映中のこと。映画館さながらの雰囲気。しかし作品の内容はよくのみこめなかった。

隣室は昔とかわらぬポスター展示。映画芸術に関する調査、統計など、よくも集めたものだ。暗幕は火災で焼失、借りものとのこと。

〔ロックの会展〕耳を裂く雑音？ 当世流行のハードロック専門のレコードコンサートという。

係員曰く「岩手は未開拓地域、広く若者にロックの素晴らしさを理解してもらうため活動している」。浪曲と東海林太郎の曲しか知らぬ小学生にとって猫に小判。英国では今云々のグループが…の説明も上の空、早々に辞去する。

〔応援団〕喧騒から解放され、会場に足を踏み入れ、ほっと安堵す。

校旗、団旗、手旗の展示。高体連開会式ではマナーがよかつたとの評をうけた応援団。伝統の象徴だ。

係員の応援実技、校歌の時は思わず小声で口ずさむ。礼儀正しく、よき伝統が継承せられんことを願う。

〔スキー展〕古今東西のスキー展示。昔懐かしい長靴スキーから、今流行の十万円もするスキーまで各種。近年運動部が不振と聞くが、一層の奮起を期待したい。

〔中学展〕北海道修学旅行の思い出。中一の書道作品展示。中二、三年の二四名合同の修学旅

行とのこと。旅先では、山奥の分校と間違えられたとか。

〔吹奏楽〕近年その活躍がめざましい吹奏楽部の発表。二年連続岩手県で優勝したとかいう。音楽をわからぬ小生でもやはり良いものは良い。しばし耳を傾ける。——かくて一巡終了。

趣向をこらした石桜のご自慢等、新しい伝統になりつつあると聞くが、**弁論、演劇、山岳**、各委員会の研究発表が試みられないのは会場難のせいであろうか。

高校の学園祭が大学のマネごとをして興味本位、上滑りしてきたと言われるが、地道な研究を発表している後輩たちの姿にほっとして校門をあとにす。